

# 国診協 に い が た

編集・発行  
新潟県国保診療施設協議会  
新潟市中央区新光町7番地1  
新潟県国民健康保険団体連合会  
電話 025-285-3039  
発行代表者  
新潟県国保診療施設協議会  
会長 藤森 勝也

## 令和5年度 新潟県国保診療施設協議会 医療セミナーを開催

とき・令和5年11月25日(土)  
ところ・新潟市ガレソンホール「コープシティ花園」  
《テーマ》  
アフタコロナでの、わが街・施設・病院の地域包括医療・ケアの取り組みと課題



開会挨拶  
藤森 勝也会長

新潟県国保診療施設協議会（以下新潟県国診協）は、令和5年11月25日（土）新潟市ガレソンホール「コープシティ花園」において医療セミナーを開催した。このセミナーは、国保診療施設の相互の共通問題などを研究討議し、地域包括医療・ケア事業を推進することにより、地域住民の保健、医療、介護、福祉の向上を目的に、今年度で7回目を迎える。昨年度同様に、ハイブリット形式での開催で県内会員施設、医療機関などから43名の参加があった。

開会挨拶では、新潟県国診協の藤森勝也会長が、「新型コロナウイルス感染症の発生から4年余り経過し経済活動もコロナ前と近い状況になってきているが、まだ終息ではないため医療関係者は引き続き細心の注意を払い、取り組んでいかなければならない。」

令和6年度は、医師の働き方改革の施行や診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等、報酬のトリプル改定の年である。全国国診協では、医師の働き方改革に対して各施設での取り組み状況の調査や診療報酬改定に対しての要望事項の調査を行うなど国の動向を注視しながら様々な取り組みを行っている。この医療セミナーが多職種の皆様方の良き交流の場となり、相互理解地域の発展になつてほしい」と述べた。その後、5名の方から事例発表があり、ディスカッションが行われた。



会場の様子

事例発表の内容については、次のとおり。

**病病連携、病診連携の現状と課題**  
あがの市民病院  
遠藤 明日香 氏

あがの市民病院では、病病連携として下越圏内で脳バスや骨バスなどの「と



遠藤氏

きネット」を利用した地域連携バスの使用を行っている。「あがの在宅医療バックアップシ

ステム」の運用により、在宅医療を受けている患者の病状の急変に対し、円滑に入院ができるなど、病診連携がスムーズにいく取り組みも行われている。今後の課題としては新潟医療圏域の病院との連携強化を図るため「CARE BOOK」など新しいクラウドサービスの導入などを検討している。また、患者が地域に戻りたい、地域の病院にかかりたいと思った時に、関係機関との連携を整え、気軽に紹介、逆紹介ができる関係性を築いていきたい。

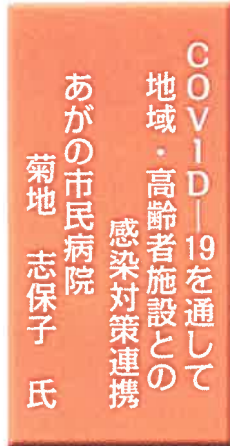
**慢性疾患を重症化させない  
—臨床検査科は疾病  
管理情報室である—**  
魚沼市立小出病院  
吉田 和文 氏



吉田氏

検査科の疾病管理活動として必要な検査が、適切な時期で実施されているかを調べる糖尿病

療養指導チームがある。(蛋白陽性率推移、CKD分類推移や推定一日食塩摂取量検査など、疾病管理の重点項目を実施リストにより「見える化」する事で適切な処方選択や栄養指導の診療支援に繋がっている。また、継続的な活動を行うことで各部門の連携が生まれ、重症化予防へ共通意識を持つことにより、チーム医療となる。その一役を担うのが臨床検査科であり疾病管理情報室である。



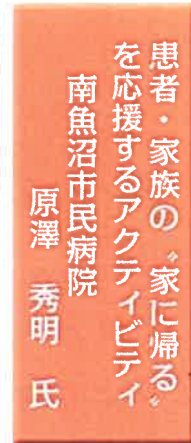
あがの介護・病院連携の会ではCOVID-19感染対策や各施設での問題の抽出など、顔の見える関係の構築を目指してあがの市民病院で2月に1回開催している。COVID-19対策では地域流行前は各施設が自施設の取り組みを紹介し、意見交換を交えての情報共有を行った。流行期には各施設



菊地氏

の不安、疑問を共有し、それに対して改善点、対策について施設へ訪問し、助言・指導を行って

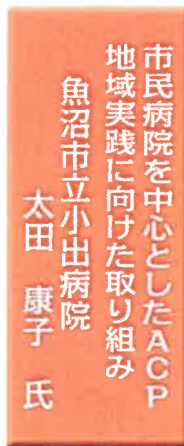
きた。今後5類移行後も地域で研修を行うなど、積極的に連携を図り感染対策を共有していく。



原澤氏

アクティビティケアとは、利用者の生活を活性化させるために、援助者からの意図的

なアプローチのひとつであり、日々の生活に潤いや刺激を与えることにより楽しみながら身体機能の改善を図ることを目的としている。またアクティビティケアの効果として、「生活全般が活性化される」「潜在的能力の活用」「楽しく心地よい時間の共有」「生活意欲の回復」更に認知症高齢者に対し、高いADL改善率を維持している。「患者家族の家に帰る」「送りたい生活の実現」を応援するために、回復期ハビリテーション病棟の役割として、多職種連携によりできるADLを最大限に引き出し在宅生活を見据えた支援を行うことにより、退院後の生活を考える一因となっている。



太田氏

援の一部として今後、周知・活用し更なる展開を目指していく。

地域包括ケアの一部として広く展開することを目的として「魚沼でACPする」と命名されたプロジェクトが2019年に立ち上がった。2020年からは病院・在宅・地域で構成されたワーキングチームを立ち上げ各現場での実践に向けた課題の抽出や方策について検討を重ねた。2021年は実践の年として病院では「納得できない死亡退院」をテーマにACP実践の研修会の開催や実践ツール「わたしの想いノート」の制作に取り組んだ。更に2022年以降は展開の年として、推進リーダーの研修会や周知、ルールを検討している。ACP活動は地域包括ケアの一部であり、包括ケアに携わる多職種・他施設の相互理解が必要であり、市民の理解と参加がなければ定着しない。「ときどき入院は在宅を合言葉に市民病院を拠点としながら、実践ツール「わたしの想いノート」を入退院支援の一部として今後、周知・活用し更なる展開を目指していく。」

事例発表終了後、新潟県国診協の布施副会長から事例発表について講評をいただき、最後に「今後も地域包括医療・ケアシステムの構築に向けて新潟県国診協としても積極的に取り組んでいかなければいけない。」と閉会挨拶し、医療セミナーを終了した



閉会の挨拶 布施副会長



ディスカッションの様子



# 第37回 地域医療現地研究会 香川県

令和5年5月12日(金)～13日(土)、香川県観音寺市「ハイスタツフホール」において、第37回地域医療現地研究会が開催された。

「Withコロナ、afterコロナ時代における地域包括医療・ケア」をメインテーマとして、約221名の国保直診・国保連合会関係者などが参集した。

地域医療現地研究会は、全国の国診協会員及び関係者が、地域包括医療・ケアに積極的に取り組んでいる施設に集まって現地の気候風土に触れながら視察、研修を行い、現地の方々との交流の中で地域包括医療・ケアシステムの真髄を学ぶことを目的として開催されている。



会場の様子

本県からは、あがの市民病院から1名、事務局4名が出席した。1日目は、開講式の後、施設の概要説明があり、午後からは三豊総合病院

及び三豊市立みとよ市民病院への施設視察研修を行った。視察終了後は地域医療交流会が4年ぶりに開催され、フェイス-toフェイスで友好を深める場となった。

2日目は「withコロナ、afterコロナ時代における地域包括医療・ケア」をテーマに琴平町「琴参閣」で全体討議が行われ、三豊総合病院長である山田大介氏と三豊市立みとよ市民病院長の湯中淳一氏が座長を務めた。「withコロナ時代・共助と行政の役割」と題して三豊市長の山下昭史氏から基調講演の後、3題の実践報告があった。その後、全国国診協副会長の海保隆氏、国民健康保険中央会理事長の原勝則氏より助言があり、閉講式の後、全日程を終了した。



## 三豊総合病院

三豊総合病院は、一般病床458

床、感染症病床4床で中央棟、南棟、西棟が連なる合計462床の大規模病院であり、血液透析ベッド32床ある腎

センター、内視鏡4室の内視鏡センター、地域がん診療連携拠点病院の中核を担う放射線部門などがある。また、令和5年4月に新しい施設として健康管理センター(Wellness Support Plaza)が設立され、人間ドックをはじめ脳ドックなど各種健康診査を行い、地域住民の病気の予防、健康に寄与している。

## 三豊市立みとよ市民病院

三豊市立みとよ市民病院は、一般病床46床、療養病棟46床、精神科病棟30床、計122床の大病院と小規模機関の間に立ち地域と医療の架け橋となる、へき地医療拠点病院である。基本的に全室個室で個室料を徴収せず、トイレット病床も設置されているため、患者のプライバシーが守られた感染対策にも有効な病院である。



# 第38回 地域医療現地研究会

■開催日

令和6年6月21日(金)・22日(土)

■メインテーマ

「大空と大地の中で育もう」

「地域包括医療・ケアの未来」

「住み慣れた地域で完結する」

「地域医療を目指して」

■会場及び視察・研修施設

(1) 会場

ホテル日航ノースランド帯広

(2) 研修施設

足寄町国民健康保険病院

高齢者等複合施設「むすびれつじ」



現地研究会に参加した藤森会長と事務局

第63回全国国保地域医療学会  
福井県福井市



口演発表 藤森会長

令和5年  
10月6日  
(金) 7日  
(土) の2  
日間におい  
て福井県福  
井市にて第  
63回全国国  
保地域医療

学会が開催された。「コロナ超え、今こそ飛ばたく地域包括ケア」幸福の地に翔る不死鳥の如く」をメインテーマに全国から1000名を超える国保直診関係者・市町村関係者・国保関係者などが参集して開催された。

学会プログラム1日目は池端幸彦福井県医師会長の特別講演、国保直診開設者サミットと3つの教育セミナーが行われた。2日目はシンポジウムと4つの専門分科会が行われた。

本県協議会藤森会長の口演発表では、「地域医療研修・教育の充実は、病院経営を改善するか」と題して「地域医療研修の充実は、病院を活性化し経営に好影響を与えることから、今後とも教育を充実させ、研修医と共に成長していく病院運営を行いたい」と述べた。

今回の地域医療学会では、本県から6名のポスター発表と口演発表があつた。



ポスター発表の様子

第64回  
全国国保地域医療学会

開催日

令和6年10月4日(金)、5日(土)

学会会場

いわて県民情報交流センター

「アイーナ」

地域医療交流会会場

ホテルメトロポリタン盛岡

NEW W I N G



令和6年度 行事・会議予定

新潟県国保診療施設協議会

- 新潟県国保診療施設協議会総会 令和6年7月5日(金) 新潟市 自治会館
- 令和6年度新潟県国保診療施設協議会医療セミナー 令和6年11月9日(土) 新潟市ガレッソホール「コープシティ花園」

全国国保診療施設協議会

- 第38回地域医療現地研究会 令和6年6月21日(金)～22日(土) 北海道足寄町  
【メインテーマ】「大空と大地の中で育もう地域包括医療・ケアの未来」  
～住み慣れた地域で完結する地域医療を目指して～  
【会場】 ホテル日航ノースランド帯広  
【研修施設】 足寄町国民健康保険病院、高齢者等複合施設「むすびれっじ」
- 全国国保診療施設協議会定時社員総会 令和6年6月14日(金) 場所 東京都内(未定)
- 国保直診口腔保健研修会 令和6年10月3日(木) 岩手県盛岡市
- 第64回全国国保地域医療学会 令和6年10月4日(金)～5日(土) 岩手県盛岡市  
【メインテーマ】『地域包括医療・ケアで地域の「絆」をより強く』  
～地域医療学会発祥の地「イーハトーブ」から未来へ発信～  
【会場】 いわて県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市)  
【地域交流会会場】 ホテルメトロポリタン盛岡(盛岡市)
- 地域包括医療・ケア研修会 令和7年1月17日(金)～18日(土) 場所 東京都内(未定)